

トムトム通信



第 13 号

2003年 12月発行

トムトムの理念

ハンディのある方とご家族が地域の暮らしの中でノーマライゼーションを実現するためには利用者が選択できる豊かなサービスが必要です。トムトムはパーソナルサービスを提供するシステムの中で、年齢やその障がいの種別にかかわらず利用者主体のサービスの確立をめざします。

トムトムはハンディのある方とご家族のための会員制のサービスセンターです。
TEL/FAX (0467) 58-8335

就任のご挨拶	1
理事挨拶	2
理事挨拶	3
チャリティーコンサート	4
新職員紹介	5
シース・リレートーク	6
リレートーク・バザー	7
お知らせ	8

就任のご挨拶

トムトム理事長 上杉 桂子

この6月より再び理事長をお引き受けするに先立ち、前理事長田尻さんには心より御礼申し上げます。

支援費制度施行の初年度に当たる今年、トムトムにとっても大きな節目となった重要な時期にご助力下さったことは、職員はじめトムトムに関わる全ての人間にとっての大きな支えとなったと思います。ありがとうございました。

トムトムが一民間サービスとして発足してから4年の月日が流れました。その間、NPO法人資格取得や支援費制度導入による指定事業所への移行など、時代のニーズに沿ってトムトムも変化し続けてまいりました。設立当初よりトムトムをご利用のご家庭にとっては、そのめまぐるしい変化に不安や混乱を感じられた事と思いますが、お陰を持ちましてトムトムは未だ健在です。

さて、今年度より県や市町村に指定を受け、地域に数々の居宅サービス事業所が立ち上がりましたが、その中でトムトムは他の事業所とは違う光彩を放っています。それは支援費という制度枠を越えた、「パーソナルサービス」を維持しているという点によるものです。料金設定は支援費の自己負担分に比べ高額になる場合がありますが、この部分こそ実はトムトムの存在意義の軸であり、それは設立当初より一貫した不動のものなのです。

「隙間サービス」とも言われる、こうした主に「余暇を支援する」という発想から生まれたトムトムのサービスは、どんな制度にも当てはまらない、しかし人が人として生きていくために、体内に張り巡らされた血管のようになってはならないものです。そしてそれは、決まった形を問わず、個々の利用者の方のパーソナリティを影ながら支える黒子のような存在です。

支援費のヘルパーの働きは、確かにそれに近いものがあります。しかし、個々のニーズに沿うとはいえ、未だ提供する側の都合で区切られたサービスとして、柔軟性に欠けるきらいがあります。(たとえば車での送迎は、多くの利用者のニーズでありながら、支援費支給の対象にはなりません。) 公的な制度枠の宿命と言えるかもしれませんが、この現実こそがトムトムが採算の厳しいこのパーソナルサービスを固守する意味につながっていくのだと思います。

人は皆、それぞれが自分自身を生きるために生まれてきたと言えます。そのために必要な個性は保障されなければなりません。公的なサービスで他の誰かと共通のニーズを満たしつつ、ひとりひとりが主人公になれる暮らしを、今後もトムトムはめざしていきたいと思っています。

副理事長：松尾 紀子

トムトムは誰が主役、もちろんトムトムを必要とする利用者の皆さん。脇役は、保護者の方々であります。この主役と脇役を客観的に支えていきたいと総括的な役割をトムトムの職員（理事も含めて）が担っています。はじめの一步は、保護者の中でもお母様方が運営の中心に当たりました。そしてNPO法人になってからは理事達が運営の中心に……。毎年、毎年、利用者の方々が中心で発想したいと現場職員自身の働きやすさの改善も含め模索し、めまぐるしく動いてきました。それは不安定さということではなく、柔軟にありたいというトムトムの姿勢であると考えます。この度また組織が一部変更しました。それは一番現場を良く見ている職員達が企画運営の発信者になるということです。単なる“見まもり”（変なことばですネ）でなく、いつも利用者と共にいたいという願いでもあります。現場職員は夜10時前に帰ったことがあるのだろうかとか健康面を心配していますが、若さと熱い思いが消えないように支えていきたいとします。不足だらけかもしれません。主役、脇役、支えて私達みんながつぶれないよう、ゆとりと緊張さを持っていけたらと思っています。長い目で育てていくことが今、大切なのではないのでしょうか。これで良いという状況はいつもないのでから……。

理事：中村 稔

支援費制度開始から半期が過ぎ、どの事業所でも制度の理念と実経営、または事業運営方針等との軋轢（あつれき）が具体的に起こっているのではないのでしょうか。

私たちのトムトム（以下、トムと略）も、全くサービスのなかった開設時に自動的にパーソナルサービスを始めてから、今や指定事業所として支援費利用希望が供給量を上回るほどになっています。しかし、支援費制度で認められない支援範囲や、まして制度対象外とされる障碍当事者のニーズには、結局思うように手が届いていないのが実状です。

理事の一人として、今後のトムに望むことは、一日も早く制度に基づく財政基盤を確立し、安定して専門的なサービスを提供できる運営体制を整えること、そして、制度が保障しない切実な生活ニーズにも応えられる事業の展開を、具体的に検討していくことです。

これが、必要に基づき、敢えて制度外サービスから始めたトムを陰に日向に支え続けてこられた皆さんへの、福祉事業所としての誠意であり意地ではないかと考えます。

経営的には企業に多くを学びながら、但し運営は企業化しない目線を維持しつつ、今後もトムが発展し続けることを祈ります。またそのために、今後も微力を尽くしたいと思っています。

理事：本間太郎

4年前から障害のある方をサポートする資源がとても少ない地域で、トムトムはサービス提供を中心とした活動を行ってきました。その結果としてサービスを使ってもらうことを障害のある方とご家族に実際に体験してもらったというのは大きな意味があったと思います。

結果として利用される方、利用件数、時間数も順調に伸びました。そして、支援費が始まってトムトムは財政的にも安定してきたのでもう大丈夫、というように見えるかもしれませんが、でも実は財政的にも厳しく先の見通しもつかない、目一杯の状況でやってきて今年度ようやくなんとか支援費制度で事業を行い、これからの事業運営の基盤を整えて、しっかりとした事業を行おうとしているというのが現実です。

支援費制度が始まったからといっても、地域生活に必要なサービスはまだ量的にも質的にも十分であるとはいえない状況です。また、トムトムが理念として掲げてきたものすべてをトムトムだけで具体化することの難しさを日々感じています。

今、トムトムはトムトム自身も変化をしなければいけない時期にあります。

ようやく出てきたサービスの芽としてのトムトムを地面にしっかり根をはったものとして、のばして行くことだと思っています。

しっかりとしたトムトムの基盤を築くためには、実際に現場で関わっているスタッフが中心となって、今までの活動を振り返り、見直し、事業を具体的に運営していく事だと思っています。

今回の理事会を含め、組織的な変更もさせていただいたのは現場スタッフの意向をくんでいただいた結果です。事業の具体的な運営は現場スタッフが中心に担わせていただきますが、トムトムは利用者とそのご家族、職員、ボランティアまたトムトムの活動を支援していただける思いのある方によってはじめて成り立っていきます。今後もよろしく願いいたします。

—お知らせ—

常勤の山本奈央は、来年の3月まで休職いたします。

理事：大野 裕子

新しい制度がスタートして早や半年を過ぎました。でも依然として混沌とした状況に感じておりますが皆様はいかがでしょう。同じ制度の内容でも自治体ごとに対応も異なると云うこともしばしば。それが独自性でもあり各々の行政判断なので当然と云えば当然の成り行きです。でも三市一町の利用者を抱えているトムトムにとっては“個性なのだから”では済まされない辛さも抱えているのも事実です。

新しい船長と共に新装“トムトム丸”の乗組員となった我々ですが出帆早速また新たな波に立ち向かっております。乗客(利用者)の方達がより心地良い状況で過ごせるにとを切に願って運航をしているつもりですが我々船員達の力だけではまだまだ微力です。今までもトムトムは数多くの方々のお気持ちに支えられて活動を行なって参りました。皆様のご支援に対しては感謝の念でいっぱいです。そしてどうか今後のトムトムへも引き続き多くの方々が応援して下さいます事を今、切に願っております。

理事：東 真巳

私もトムトムでお仕事をさせて頂き約1年半が過ぎようとしています。今思うと、さまざまな理由から入所している利用者さんの、時間に縛られている生活を見てきて、障がいを持った方たち一人一人の生活スタイルに合わせて何かお手伝いできればという一心でトムトムに入社しました。そして、とにかく利用を受け続けていたところから肉体的にも精神的にも限界を感じ、今年4月から支援費導入を迎え、トムトムにとっても変換の年を迎えています。

これからのトムトムがどのような姿であることがベストなのか、理想だけでは解決できない課題も多く、正直、私自身も整理がついてない状態です。ただ一つ言えることは、利用者ご本人とそのご家族というトムトムを必要としている人がいる限り、トムトムがつぶれてはいけないと思うのです。今年度トムトムのスタッフと共に理事として、制度や地域の実情を把握し、トムトムが今後10年先にも地域の中で必要とされるサービス機関であり続けていられるよう貢献していきたいです。

理事：裴 哲恩

自閉症児の娘と電車に乗っている。車窓からの風景は同じはずなのに、娘にはそれを表現する手だてがない。あれこれとしたいこともあるだろうに、きちんと伝える力もない。もどかしい思いをしているのではないだろうか。娘と二人でいるとそんなことばかり考えている。

娘の行く末を思い悩む時間に比べて、一緒にいられる時間は物理的にもとても少ない。後ろ髪を引かれる反面、父親がべったりつきまとうのも考えものだという気もする。

そういう時、第三者の立場から真摯に娘に向き合ってくれる存在が、私にとってはトムトムのスタッフだ。彼らが動きやすい環境をつくるのが理事の仕事だとの思いから今回引き受けた。トムトムに関わる人たちを、同じ船に乗った運命共同体だと位置づければ、試行錯誤はあっても目的地は同じ。微力だが、力を尽くしたいと思う。

理事：伊藤 久美子

今年度、理事という大役を引きうけたのはいいのですが、何をするのもわからず、飛び込んでしまいました。しかし、自分なりに寒川地区代表として、今の寒川に於いての福祉内容、本人、保護者などの情報を集め、微力ながら少しでもトムトムと寒川との架け橋となれればと思っています。そして、この任期中に、色々な面で自分なりにトムトムを利用している子供達や保護者の方々、職員のみんが充実した日々を送れるように考えていけたらと思っています。B型の私としましては、独自のマイペース?! 典型ですので、他の理事の皆さんの話を聞くよい機会と思っておりますので、宜しくお願いいたします。

オブザーバー担当：種田 淳一

トムトムの業務にいくらかでも、力になればと思いオブザーバーで参加しています。

直接、運営に参画することは難しいですが、進路支援の経験や行政の視点等を活かし、教育、福祉等を極力客観的な視野でとらえて応援していきたいと考えています。

近年、社会構造の変化に直面し課題も山積しています。特に支援費制度は2年目をむかえて適性な執行が求められています。また、地域の社会資源との連携など新たに対処していかなくてはならない要件がめじろおしです。

NPO法人の基盤は決して強いものではありません。皆様の共感と支えがなければ良いサービスの提供はあり得ません。

当方、微力ではありますが、できる限り協力していく所存であります。



8月9日(土)

第3回トトムチャリティコンサートに思うこと

裴哲恩(実行委員長)

知的障がいをもつ子どもたち数人が、大きく肩を揺らしながら韓国の打楽器が奏でるリズムに体を合わせている。その姿を会場の後から見つめていた。ケンガリのような耳をつんざく音は、自閉症児らには刺激的すぎて、いたたまれないのではないかと、という心配はその時点で吹き飛んだ。どの子どもも会場から飛び出したりはしなかった。

8月9日の夜、今年で3回目を迎えるトトムチャリティコンサートでの話である。台風の影響にもかかわらず、お客さんの入りは9割を占めた。今年はおなじみのジョン・チャヌさんのヴァイオリンに加えて、初めて趙寿玉さんらによる韓国舞踊と韓国伝統楽器の演奏もプログラムに取り入れた。日本人拉致問題以降、険悪になっている北朝鮮と日本の関係が、在日同胞と日本人の間にも微妙に影を落とし、お互いに後ろ向きになっている不幸な状態を何とかしたかったからだ。

日々の暮らしのなかで差別に負けずに懸命に生きている在日同胞、なかでも芸術の世界に生きる人たちのステージは、必ずや人々に夢や感動を与えてくれるだろうという確信があった。確信は的中した。子どもたちも大人も、隣国の伝統文化に触れ、新鮮な感動を得たようだ。目を細めて感想を述べ合っている老夫婦もいた。韓国舞踊見たさに、福祉施設の外出許可を得てわざわざ小田原からやってきた在日1世の高齢者もいたらしい。コンサートの感想を聞いたアンケートには、「自閉症児の息子は舞踊が一番気に入っていました」という声や、初めての韓国舞踊に郷愁のようなものを感じたという声もあった。

フィナーレでは趙さんらの手招きよりも早く、子どもたちがステージに上がろうとしていた。それまでピョンピョン飛び跳ねて喜びを表していた子どもたちだった。踊りの輪の中に、中学1年の自閉症児のわが娘と妻の姿があった。小学4年の末息子がやって来て、「アッパ、オンマとソニが踊ってるよ」と興奮を隠せない様子。「おまえも踊ってくれば」と背中を押すと、照れるばかりだったが、楽しく踊っている自分の姉から目をそらさなかった。

障がい児を姉にもつ弟の大変さは今後も続くだろう。しかし、障がい児らのためのコンサートの意味とそのために汗を流す多くの大人たちの姿は、息子の目にもしっかりと焼き付いたに違いない。当日、会場でいきなりプログラム配布係を押しつけたが、来年はきちんと運営スタッフに入れてほしいと言いながら、打ち上げ会の時までスタッフの名札を胸につけ上気していた。

障がい児と健常児との共生、在日同胞と日本人との共生。ぼくたちは未知の世界に臆したり、躊躇することがとても多いが、まずは一步を踏み出すことが大切だと再認識した夜だった。

こうざき りゅうた

幸崎 竜太です

よろしくおねがい
しま〜す！！昭和52年
11月8日生まれ
25歳 さそい座皆さん
いじめないでく
ださいネ・・・
(汗)

こんにちは！七月より契約職員でトムトムの一員となりました幸崎竜太です。簡単に職歴を申し上げますと、大阪市でガイドヘルパー兼通所更正施設で職員をした後、地元である神奈川県三浦市に戻りました。その後、県内のはずれにある社会福祉協議会で、事務兼ガイドヘルプ事業の仕事をしました。

その時に感じたのが、行政に近すぎる立場で仕事をすると、出来る事も様々な制約で出来なくなる事、そして福祉サービス地域間格差が想像以上にあることを、身を持って思い知らされました。

ハンディキャップを抱えている人は、大都会じゃなければ良いサービスは受けられないのか？？自分の住み慣れた地域で生活する選択肢は無いのか？？そんな思いを抱えたまま、様々な事情により仕事を退職しました。

そんな状況下で、トムトムのホームページを見たのが私とトムトムとの出会いでした。大都市圏と言えない都市で、NPOとして充実したサービスを提供し、ハンディキャップを抱えた人の地域生活をする為の手段となっている事にとっても関心を持ちました。

トムトムで、勤務をさせて頂いて4ヶ月になります。支援費という制度の変わり目で、新しい仕事をする事にまだ慣れていない為、色々な事に戸惑う日々です。皆様、ご迷惑をかける事もあると思いますが、自分の力の限り頑張りますのでよろしくお願い致します。



リレートーク

原田 香里

トムトムができて早4年(えっ?まだ4年?!)我が家では、トムトムができる寸前に長男の小学校の卒業式、中学校の入学式という大変だった時期を乗り切ってしまったので、“トムトムなしでも結構なんとなかなってしまふ!トムトムはとりあえず保険…”なんて思いつつすごしてきました。

みんなが“大へん~”と言う夏休みも、“学校への送り迎えがないから、楽~う。行く所もとりあえずいくつかあるから困らないし…”(夏休みが終わると、とたんにエンゲル係数が下がりますが。) どうせいつか親離れしていくんだから、一緒にいられるうちは一緒でもいいんじゃない!? 親も一緒に楽しんじゃおう!”なんて思っていました。(今でも基本的にはそう思っていますが)

親の都合だけではなく子どもの楽しみ・余暇利用としては言うけれど…

若いお兄さん・お姉さんが遊んでくれるのは“とても魅力的!”ではあるけれど…若~い経験の少ないボランティアさんだったりすると、一緒にいるだけで精一杯。かえて子どもが気を使っていたりして…。(だ~い好きなウルトラマンのビデオを買えなかったという、にが~い経験もあるし、でも将来貴重な戦力になってくれるかもしれないのだからとも思うし…) ふくざつ~。なんてことも思ったりして…。

今年になって仕事をはじめ、毎日利用、土・日の利用も時々。障がい児の親でもフルタイムで働けるなんて…

少し前までは夢のような話。トムトムなくてはありえないこと。今は特に親の都合での利用になっていますが、子どももあちこち連れて行ってもらったり、野菜の収穫・卵とりetc、etc貴重な経験をさせてもらって楽しそうだし。なんといっても夏休みが終わったあとの「夏休みどこに行ったの?」の答えが「トムトム!」。(あのねー、ウルフエス2回も行ったでしょ!。バーベキューだって花火だっていっぱいやったでしょ!)

でもそんなトムトムも利用料は相変わらず…。

支援費がスタートしたとはいえ、我が家にはこれはありがたい!と思えるほどの恩恵はない…ただ、支援費も自由契約もお願いしてあるのでこれはいろいろが安心。

それに子どもを安心して預けられるし。(最近利用を始めた人も、やっぱり安心度から言ったらトムトムだよねと言っておりましたヨ。)

今はただ、トムトムがこれからも利用しやすい事業所で、利用者が楽しめる所であってほしいと願っています。そしてトムトムのように安心して利用できる事業所が増えていく事を願っています…。

トムトムを利用して

仲間 清子

「トムトムです。明日の予定はどうされますか?」「す、すみませ~ん。明日のプラン、まだ考えてなくて出来てません。あとで…いや、明朝にFAXで送ります…。」

これはトムトムを利用する前日の職員さんと私の電話でのやりとりです。

今年4月より福祉サービスが、これまでは行政指導のもとでうけていた措置制度から、本人(または代理人)がサービスを選び、そして直接事業者と契約をして利用をしていく支援費制度になりました。私の住んでいる寒川町は福祉資源が少なく(人口も少ないのだが…)支援費制度を利用できる事業所が1つしかなく、また以前から寒川町は知的障害児童のサービスは活発ではありませんでした。そんな状況のなか、本人が選べるサービス?事業者との契約?…と不安になっていた時に、☆救世主☆のように手を差し伸べてくれたのが「トムトム」なのです。トムトムの存在はもっ

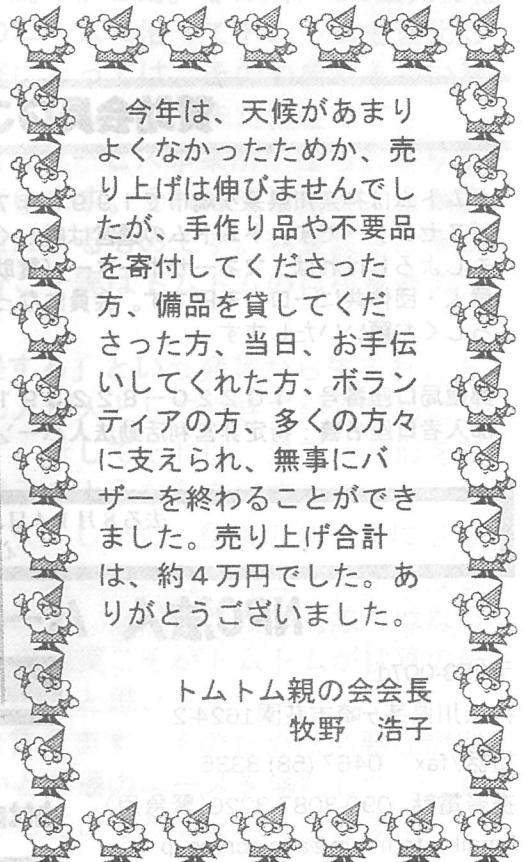
リレートーク

と前から…実は立ち上げ当時から知っていました。障害児を抱えるお母さんたち（もちろんお父さんたちや支援をしている方々も）が不平、不満を言っているだけではなく、子どもたちのためにと行政を頼らず（補助も受けることなく！）悪戦苦闘しながら設立したもののなのです。設立するまでやまた、その後センターの維持をしていかなければならない苦労を思うと、同じ障害児をもつ親として本当に頭が下がります。なぜならそのお陰で現在、私たち親子がサービスを選ぶという支援費制度を当たり前を利用することができるからなのです。いくら制度が変わっても利用できるサービス・資源がなにもなければ当たり前（普通）の暮らしができないのです。そのトムトムが事業所として立候補（？）してくれたのを機に早速、契約をして移動介護サービスを受けています。自閉症の息子の将悟は今、茅ヶ崎養護学校に通う中学2年生です。言葉もなく理解できる事も少ないため、言葉のみのコミュニケーションはとれません。なので、家族以外の方にお問い合わせする時にはまず初めに自閉症の障害について説明をして、さらにその他必要なことを話していくんですが、トムトムの場合は、なんてたって自閉症に関してスペシャリスト！の職員さん・スタッフがたくさんいてくださるので必要なことのみ説明だけでと～っても安心してお願いできちゃうんです。また手馴れたヘルパーさんたちは、冒頭のようなやりとりのなか（ごめんなさ～い！）私が当日になってやっと届けるプランを臨機応変に対応してくれて、息子が混乱することのないよう自立に向けての支援をしてくれています。今、将悟はトムトムを利用しながら、少しずつ当たりの暮らしをはじめています。



ふれあい祭り バザー

11月3日



今年は、天候があまりよくなかったためか、売り上げは伸びませんでしたが、手作り品や不要品を寄付して下さった方、備品を貸して下さった方、当日、お手伝いしてくれた方、ボランティアの方、多くの方々に支えられ、無事にバザーを終わることができました。売り上げ合計は、約4万円でした。ありがとうございました。

トムトム親の会会長
牧野 浩子



おしらせ

ボランティアいつもありがとうございます！

竹田様 角田(行)様 市田様 大概様 山本様 沼田様 角田(行)様 木暮様 岩崎様 榎本様 山崎様 山本様 ウィリアムマーク様
星様 関谷様 石井様 大規模様 草ヶ谷様 福元様 草々谷様 山崎様 市田様 金子(き)様 金子(さ)様 滝口様 金子様 柳生様
和田様 大槻様 前田様 久保田様 滝沢様 鈴木様

賛助会員・ご寄付ありがとうございます！

鍵田様 高橋様 沢田様 横山様 井口様 石井様 深川様 山本様 長崎様 飯尾様 五十嵐様 佐藤様 高田様 金沢様 清水様
本間様 富岡様 清水様 竹の子第2子ども会様 久保田様 浅倉様 鶴峯西地区民生児童委員様 小澤様 鶴田様 清水様
玉様 岩崎様 角田様 木暮様 あーちゃんズ様 草ヶ谷様 来山様 上杉様 沼田様 加藤様 佐々木様 前田様 滝沢様 藤田様

ヘルパー募集！ 見学会のお知らせ

トムトムは、平成11年7月に発足した、障がい児・者と、そのご家族のための、パーソナルサービスを提供している事業所です。今年の4月より、支援費制度が始まり、トムトムは県の指定事業所になりました。会員は主に学齢の方が多く、4月の支援費制度施行以降は、成人の方もご利用が少しずつ増えてきました。利用者の増加に伴い、トムトムではヘルパー増員を早急に進めています。

- トムトム見学会での内容
 - ・ 仕事内容
 - ・ 賃金について
 - ・ 保険・労務規定のご説明
 - ・ その他

今回、皆様に、よりトムトムを知っていただくために、見学会を設けました。この機会に是非、お立ち寄りください。もちろん、すぐに働くという訳ではなく、十分トムトムを知った上で、決めて頂くことが基本です。所在地は、裏面の地図をご覧ください。見学ご希望の方は、トムトムまでご連絡ください。皆様のお越しを、職員一同、心よりお待ちしております。

担当：本間・加藤

賛助会員のご入会・ご更新をお願いします。

トムトムは神奈川県茅ヶ崎市で1999年7月に設立しました。ハンディキャップのある方と、そのご家族の為にサービスセンターです。トムトムの運営は厳しく、多くの皆様の温かいご好意がどうしても必要です。もしよろしければ、マネーサポーター（賛助会員）として、トムトムを側面から応援していただけませんか？年会費は個人・団体共に一口3千円です。会員になって頂いた方には、不定期ですが、トムトム通信をお送りします。どうぞよろしくお願いいたします

郵便局口座番号：10220-82239161

加入者口座名義：特定非営利活動法人パーソナルサービスセンタートムトム

去る8月14日、トムトム会員の飯尾 裕紀様をご逝去されました。
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

NPO法人 パーソナルサービスセンター トムトム

〒253-0071

神奈川県茅ヶ崎市萩園1624-2

電話/fax 0467(58)8335

携帯電話 090-3087-3220(緊急用)

Email tom-tom@alto.ocn.ne.jp

トムトムホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-MomJI/8837/Index.html>